

横浜市 浸水ハザードマップ (神奈川県)

保存版

1 情報の入手方法と日頃からの備え

災害が発生する危険性が高まり、避難する必要がある場合に、横浜市は「高齢者等避難」「避難指示」のほか「緊急安全確保」の指示を発令します。

自動配信されるもの(PUSH型)

- 横浜市防災情報Eメール **要事前登録**
あらかじめ登録したパソコン・携帯電話に防災情報等が配信されます。
- 横浜市避難ナビ **要事前登録**
「横浜市避難ナビ」をダウンロードしていただくことで、マイタイムラインの作成や避難所・避難場所検索、災害時の避難情報の受信等ができます。 アプリをインストール
- ファックス
聴覚障害者の方の自宅(要事前登録)、高潮及び洪水浸水想定区域内の要援護者施設等の事業所に配信します。
- 緊急速報メール
緊急速報メールに対応した携帯電話に配信されます。
- 親水拠点警報装置
屋外スピーカーからの音声放送やサイレンにより、災害発生時の危険性や避難情報等をお知らせします。
- 緊急警報放送
テレビ・ラジオ等から警報音を発し、重要かつ緊急な災害情報を放送します。
- 広報車等による広報
状況に応じて、必要な地域へ広報車が出動します。また、職員を派遣したり、消防ヘリコプターを出動させることもあります。

「1 情報の入手方法と日頃からの備え」をご覧ください
浸水想定区域以外の方も、日頃から浸水に備えておくことが重要です。

あなたのお住まいや職場で浸水が発生するおそれがありますか?

「内水ハザードマップ」(下水道や水路からの浸水)
「洪水ハザードマップ」(河川氾濫による浸水)
「高潮ハザードマップ」(高潮による浸水)の、浸水想定区域を確認しましょう。

「内水ハザードマップ」「洪水ハザードマップ」の浸水想定区域となっている方
⇒「2 内水氾濫と洪水(河川氾濫)の発生について」をご覧ください。

「高潮ハザードマップ」の浸水想定区域となっている方
⇒「3 高潮の発生について」をご覧ください。

マイ・タイムラインを作成しよう

マイ・タイムラインとは、台風や大雨の被害等、これら起こるかもしれない災害に対し、一人ひとりの家族構成や地域環境に合わせて、あらかじめ時系列で整理した自分自身の避難行動計画です。

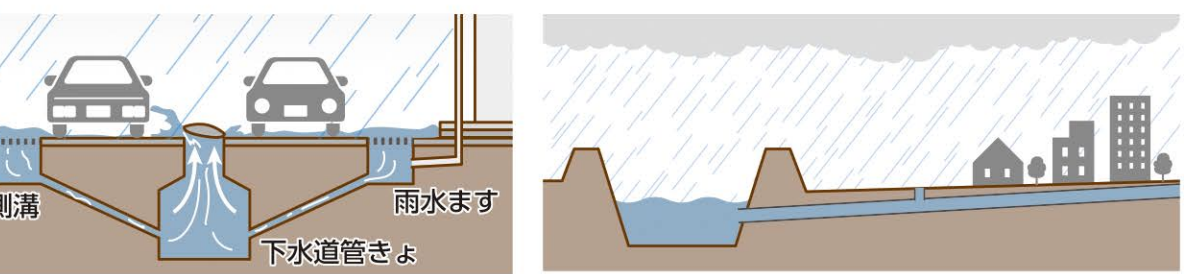
※このマップは、「自分でつくるmy防災マップ」と一緒に大切に保管してください。

2 内水氾濫と洪水(河川氾濫)の発生について

内水氾濫の発生

大雨が降ると下水道などで全ての雨水を排水できなくなり、内水による浸水が起こります。

宅地に降った雨は雨水ますへ、道路に降った雨は道路側溝などに集まり、下水道や水路等を通して河川に排水されます。



大雨のときはこんな点に注意しよう
集中豪雨に注意しよう 突発的かつ局所的な集中豪雨に備えて、ふだんから雨の様子をチェックしておきましょう。

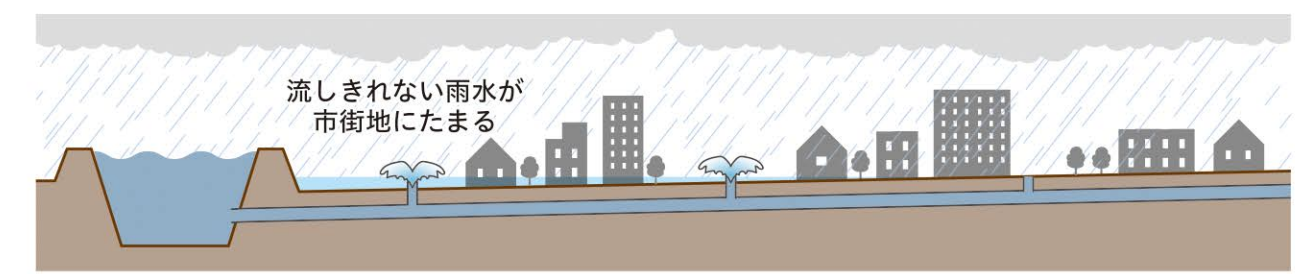


想定降雨 1時間で153mmの降雨

洪水(河川氾濫)の発生

激しい雨が連続すると、洪水(河川氾濫)の危険が高まります。

内水氾濫とは、雨の量が下水道などの排水能力を超えたときや、河川などの排水先の水位が高くなったときに雨水を排水できなくなり、浸水することです。



内水ハザードマップとは?
内水氾濫によって想定される浸水区域や浸水深などの情報をまとめたマップです。また、この内水ハザードマップは、河川の堤防を越えて水があふれることも表現していますが、堤防の決壊は想定していないため、洪水ハザードマップも併せてご覧ください。

横浜市では1時間あたりの降雨量が50mm~60mmに対応する下水道整備を進めています。内水ハザードマップは、下水道の能力を超える大雨に対して、市民の皆様の日頃からの備えや対策をとっていただくために作成したものです。

想定降雨 1時間で153mmの降雨

ハザードマップで自宅と避難場所を確認しよう

- 自宅付近が浸水したときにどのくらいの水深になるかを確認しましょう。
- 自宅から避難場所までの複数の道順や方向を、ハザードマップに書き込みましょう。

なお、災害の状況により、開設する避難場所は異なります(ハザードマップ参照)。避難する際は、市・区ホームページ等で開設している避難場所を確認してください。

- 地域では、このハザードマップを活用した訓練を行い、災害時の適切な行動につなげましょう。

避難時の持ち出し品を確認しよう

- 避難時の持ち出し品は日頃から準備し、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。
- 持ち出し品はできるだけ少なくしましょう(ラジオ、飲料水、懐中電灯、医薬品、ベビー用品、マスクなど)。また、リュックザックなど、両手があくものに収まる程度にしましょう。
- 避難場所には食料、水、タオルなど、必要なものを持参しましょう。

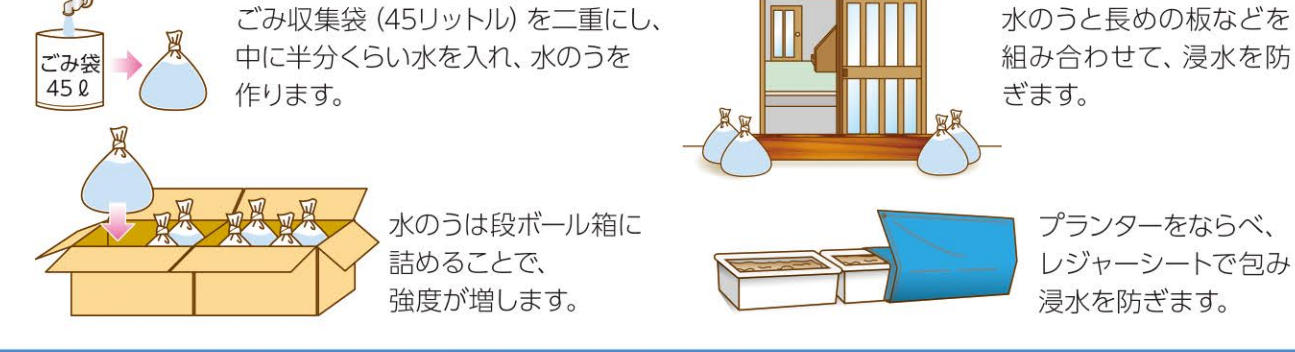
側溝や雨水ますを点検しよう

- 側溝や雨水ますをふさがないようにしましょう。
- 雨水ますの吸い込み口が落ち葉やごみで詰まると、道路浸水などの原因になります。
- 雨水ますやL型側溝の上に車乗り入れブロックなどを置かないようにしましょう。

浸水に備えよう

- 家にあるもので浸水を防ぎましょう。土のうやプランター、家庭にあるごみ収集袋などを利用した水のうなどを使って浸水を防ぐことができます。
- 大雨の際には、洗濯機、トイレ、風呂場の排水口など思わぬところから下水が逆流することがあります。排水口を水のうなどでふさぎましょう。

家庭でできる浸水防止対策の一例



避難の考え方

●身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

安全な場所へ避難(水平避難)
(避難場所、近くの高台、土砂災害警戒区域外及び浸水想定区域外の親戚の家など)

頑丈な建物の2階以上または、近隣の高い建物へ避難(垂直避難)
浸水深が浅くても水の流れによっては歩行が困難となります。無理をして屋外へ避難せず、高所へ垂直避難をしましょう。

建物内の少しでも安全な場所へ避難
(夜間や危険が差し迫っている場合など、屋外へ避難するとかえって危険な場合)

安全な経路で避難しよう
河川沿いや急傾斜地(崖)沿いの道は避けて避難しましょう。大雨により、側溝やマンホールの蓋が外れている場合があるので、転落しないよう十分に注意して、近寄らないようにしましょう。



隣近所へ声をかけよう
ご高齢の方、子ども、障害のある方などは避難に時間を要するため、早めの避難が必要である。地域の皆さんで協力し合って安全に避難しましょう。



■ お問合せ先(平常時)

お問い合わせ内容	取り扱い部署	連絡先	
地域防災・避難等に関することは	神奈川区役所総務課	411-7004	
人命救助・救急に関することは	神奈川消防署	316-0119	
道路・下水道・公園に関することは	神奈川土木事務所	491-3363	
崖に関することは	横浜市建築局建築防災課	671-2948	
河川	国土交通省関東地方整備局京浜川河川事務所	503-4000	
県管理区間の河川に関する	神奈川県横浜川崎治水事務所	411-2500	
市管理区間の河川に関する	横浜市下水道河川局河川管理課	671-2855	
内水	内水に関する	横浜市下水道河川局マネジメント推進課	671-2838
高潮	高潮に関する	神奈川県県土整備局河港課なぎさグループ	210-6514
洪水・高潮ハザードマップ全般について	横浜市総務局危機管理室地域防災課	671-2011	
内水ハザードマップ全般について	横浜市下水道河川局マネジメント推進課	671-2838	

この印刷物は、グリーン購入法に準拠しています。

避難情報がでたら

●身の危険を感じる場合は避難を開始してください。
(「1 情報の入手方法と日頃からの備え」の「避難の考え方」もお読みください)



※警報等が解除されても、河川の水位情報等には注意してください。

想定降雨	鶴見川水系 : 48時間で792mmの降雨
	帷子川水系 : 24時間で390mmの降雨
	入江川水系 : 24時間で690mmの降雨
	滝の川水系 : 24時間で690mmの降雨

神奈川県洪水ハザードマップ

洪水浸水想定区域(想定最大規模※)

鶴見川水系河川：鶴見川、鳥山川、砂田川
 帷子川水系河川：帷子川、新田間川、幸川、帷子川分水路
 入江川水系河川：入江川
 滝の川水系河川：滝の川

この洪水ハザードマップは、入江川水系・滝の川水系等の河川の氾濫が予想される場合や実際に氾濫した場合に、浸水が想定される区域の皆さんに速やかに避難していただくために作成したものです。

※想定最大規模とは
 「想定し得る最大規模の降雨」による氾濫を前提として予測したものです。



洪水浸水想定区域(想定最大規模)はどうやって決めたの？

この洪水浸水想定区域の範囲やその深さは、鶴見川水系の想定最大規模の降雨(48時間で792ミリ)、帷子川水系の想定最大規模の降雨(24時間で390ミリ)及び入江川・滝の川水系の想定最大規模の降雨(24時間で690ミリ)を前提として、川の水があふれた場合や堤防が壊れた場合をシミュレーションにより予測したものです。

【参考】横浜地方気象台では、平成26年10月5日に24時間で約307ミリの降雨を観測しています。
 なお、この洪水浸水想定区域は、前提となる降雨を超えるような大雨、下水道等からの浸水、水路の氾濫等を考慮していません。したがって着色されていない区域でも浸水が発生する場合や、実際の浸水深と異なる場合がありますので、詳細は内水ハザードマップをご確認ください。

※横浜地方気象台ホームページ
<https://www.jma-net.go.jp/yokohama/>
 ※神奈川県ホームページ
https://www.city.yokohama.lg.jp/kanagawa/kurashi/bosai_bohan/saigai/



想定条件

- 鶴見川水系：48時間で792mmの降雨
- 帷子川水系：24時間で390mmの降雨
- 入江川水系：24時間で690mmの降雨
- 滝の川水系：24時間で690mmの降雨

横浜市水防災情報

横浜市内外の河川の水位やカメラ画像をリアルタイムで公開しています。
 スマートフォンでは現在地機能で近くの河川情報を取得できます。



風水害時における避難場所について

災害時には、指定緊急避難場所以外に、地区センター、地域ケアプラザ等の公共施設、自治会町内会館を避難場所として開設する場合がありますので、避難する際は、必ず、市・区のホームページやテレビ(データ放送)等で開設されている避難場所をご確認ください。
 ◇2か所以上の避難場所へ避難できる場合、自分自身であらかじめ複数の避難経路を確認しておきましょう。
 ◇すでに浸水が始まっている場合には無理に避難場所へ移動せず、浸水していない近くの高いところに避難してください。
 なお、神奈川県では浸水時の避難場所として、下記に示した指定緊急避難場所を優先して開設します。

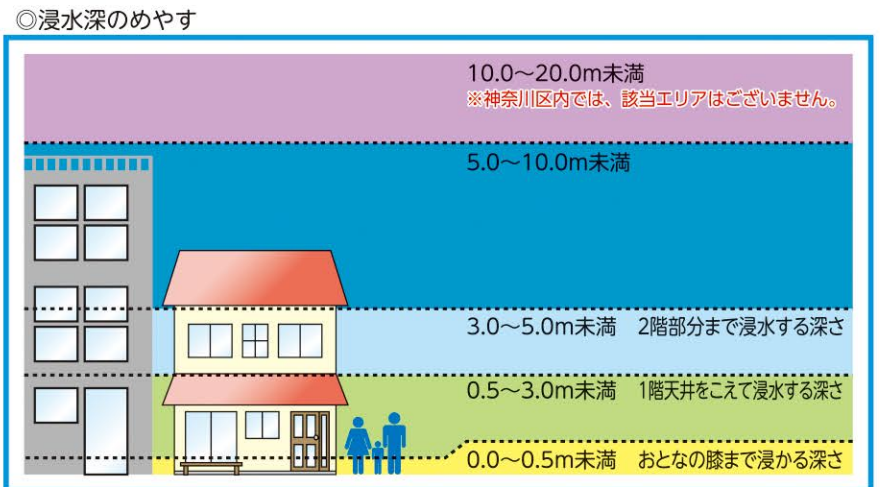
特別警報級の台風が横浜市に上陸、接近する場合
 ①子安小学校、②浦島中学校、③神奈川小学校、④幸ヶ谷小学校、⑤神奈川大高等学校、⑥羽沢小学校
 一般的な規模の台風が横浜市に接近する場合
 ⑦浦島中学校、⑧神奈川小学校、⑨神奈川大高等学校
 神奈川県では、避難指示や避難場所の開設状況など、情報を収集できる自動音声案内を導入しています。 電話:050-3196-3300

指定緊急避難場所一覧(切迫した災害の危険から逃れるための場所)

指定緊急避難場所※はあくまでも避難場所の候補であり、災害時は災害規模や状況によって開設場所を判断するため、すべての避難場所を開設するわけではありません。
 ※指定緊急避難場所：災害対策基本法に基づいた、切迫した災害の危険から逃れるための一時的な避難場所です。災害種別(洪水や土砂災害など)ごとに指定しています。

No.	指定緊急避難場所	所在地	位置
①	子安小学校	新子安1-36-1	H-5
②	錦台小学校	西寺尾3-10-1	H-4
③	西寺尾第二小学校	西寺尾2-15-1	H-4
④	西寺尾小学校	西寺尾2-5-1	H-4
⑤	大口小学校	大口460	G-4
⑥	神奈川中学校	西口141	G-4
⑦	浦島中学校	白幡東町27-1	G-5
⑧	白幡小学校	白幡上町11-1	F-4
⑨	神奈川小学校	東神奈川2-35-1	G-6
⑩	幸ヶ谷小学校	幸ヶ谷1-1	F-6
⑪	二谷小学校	平川町11-1	F-6
⑫	浦島小学校	浦島丘16	G-5
⑬	栗田谷中学校	栗田谷3-1	F-6
⑭	青木小学校	松畑17	F-6
⑮	松本中学校	三ツ沢下町30-1	E-6
⑯	三ツ沢小学校	三ツ沢中町4-17	D-6
⑰	斎藤分小学校	斎藤分町34-1	F-5
⑱	神橋小学校	六角橋2-34-19	E-5
⑲	南神奈川小学校	神奈川2-9-16	E-5
⑳	神奈川大高等学校	神奈川3-34-1	D-5
㉑	六角橋中学校	六角橋5-33-1	E-4
㉒	中丸小学校	神奈川3-17-1	D-5
㉓	菅田の丘小学校	菅田町1386-2	B-4
㉔	旧菅田小学校	菅田町674	B-4
㉕	羽沢小学校	羽沢町935	C-5

凡例(Explanatory Notes)



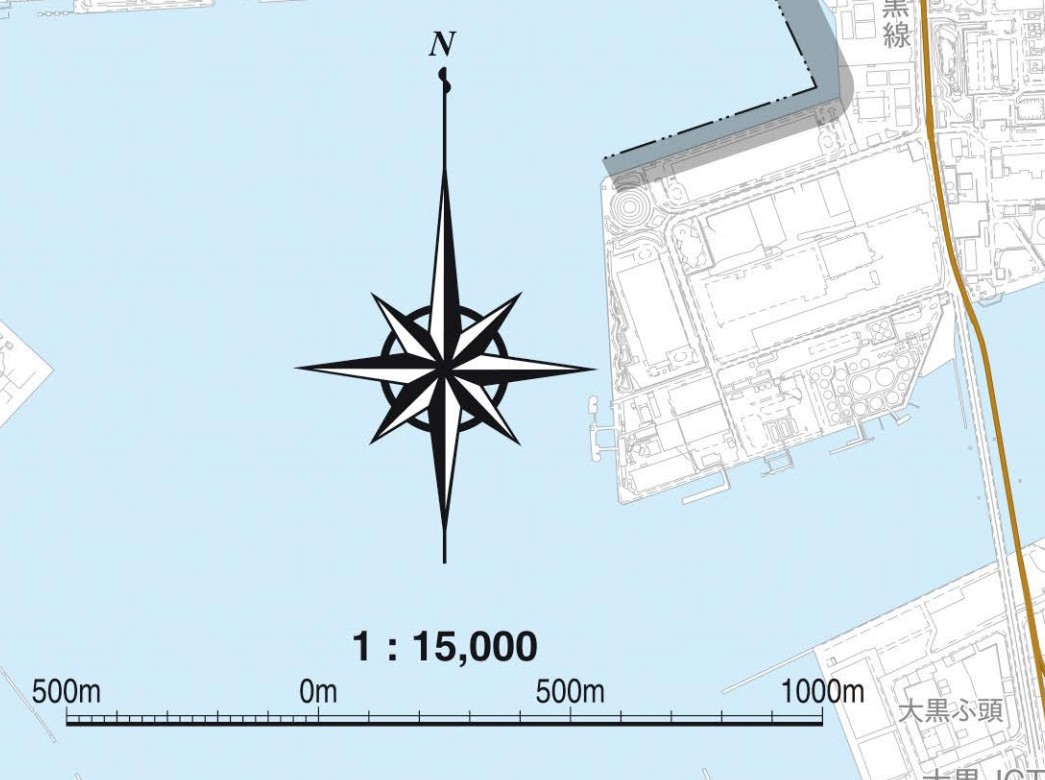
- 河岸堤防により家屋が倒壊・流出するおそれがある区域の目安(河津堤防) ※重要度の高低、強度特性や堤防対策の違いにより、この区域の境界はあくまでも目安です。
- アンダーパス 大雨時に雨水が急激に集中し、浸水して安全な通行に支障をきたすおそれがある場所(進入する危険なため、危険な通行は避けてください)
- 急傾斜地崩壊危険区域 崖崩れにより相当数の居住者等に危害を生ずるおそれがある急傾斜地と、崖崩れが助長・誘発されないようにするために切土・盛土などの一定の行為を制限する必要がある土地です。
- 土砂災害特別警戒区域 急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、崩壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい被害を生ずるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。
- 土砂災害警戒区域 急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害を生ずるおそれがある土地と認められる区域であり、危険の周知、警戒態勢の整備が行われます。

都県界	高速道路・有料道路
市区界	主要道路
町丁境界	避難場所
J R線・駅	雨量観測所
私鉄線・駅	水位観測所
市営地下鉄線・駅	河川監視カメラ



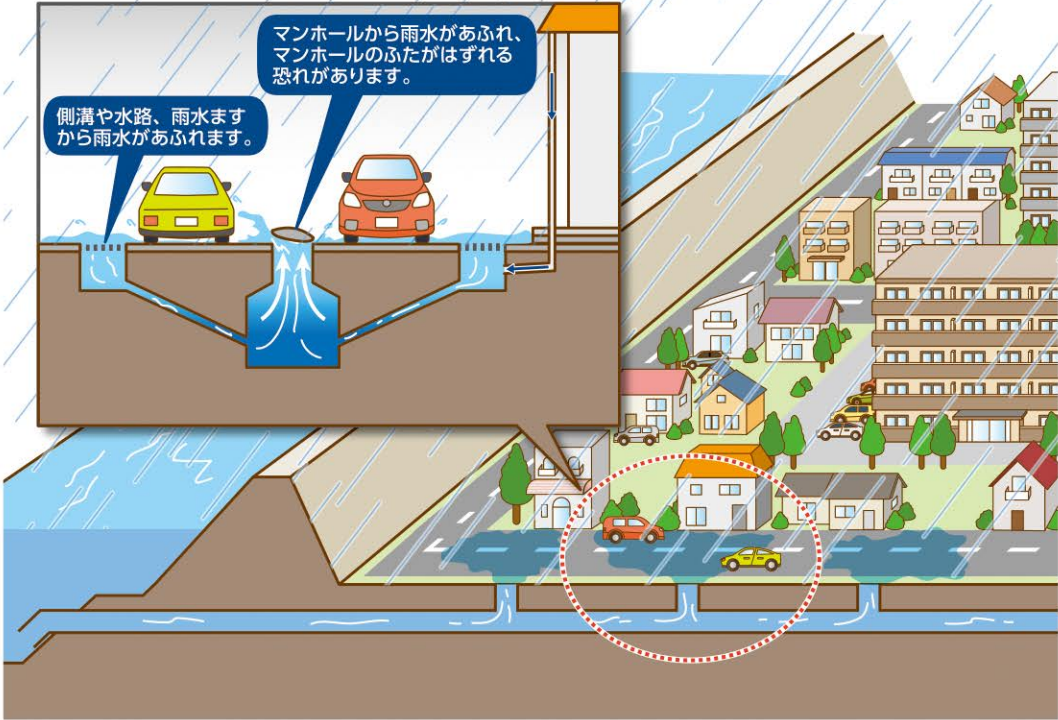
出典データ	
背景図	横浜市地形図複製承認番号 令5建都計第9035号 横浜市建築局都市計画基本図データ(地図レベル2500)により作成
河川	横浜市道路局 河川図
浸水想定区域	鶴見川水系浸水想定区域(平成28年8月指定) 帷子川水系浸水想定区域(平成29年6月指定) 入江川水系浸水想定区域(令和2年3月作成) 滝の川水系浸水想定区域(令和2年3月作成)
急傾斜地崩壊危険区域	横浜市建築局 急傾斜地崩壊危険区域(令和5年12月現在)
土砂災害警戒区域	横浜市建築局 土砂災害警戒区域(令和5年12月現在)
土砂災害特別警戒区域	横浜市建築局 土砂災害特別警戒区域(令和5年12月現在)

※入江川水系及び滝の川水系は、水防法第14条に基づく洪水浸水想定区域ではありませんが日頃から大雨への避難行動等に役立てられるよう、市が独自で洪水浸水想定区域を作成しています。なお、その他の水系に関しては、水防法第14条に基づく洪水浸水想定区域です。



神奈川県内水ハザードマップ 内水浸水想定区域(想定最大規模)

この内水ハザードマップは、下水道の能力を超える大雨に対して、浸水が想定される区域の皆さんに日頃からの備えや対策をとっていただくために作成したものです。
※河川周辺の浸水想定については、必ず洪水ハザードマップも併せてご覧ください。



※内水氾濫の浸水想定区域図は、平成30年度末の河川や下水道施設等の整備状況および地盤の高さを反映して、横浜市環境創造局が作成したものです。
雨の降り方によっては、浸水区域や浸水深がこの区域と異なることがあります。

出典データ	横浜市地形図複製承認番号 令5 建都計第9035号
背景図	横浜市建築局都市計画基本図データ(地図レベル2500)により作成
内水浸水想定区域	横浜市環境創造局 神奈川区内水浸水想定区域(令和3年4月)

内水浸水想定区域(想定最大規模)はどうやって決めたの？

この内水浸水想定区域は、想定最大規模の降雨によって、下水道や水路、道路側溝などから水があふれる範囲や深さをシミュレーションしたものです。想定最大規模降雨とは、各地方において過去に観測された最大の降雨量を基本的に設定することになっており横浜市では、1999年に関東地方で観測された時間降雨量153mmとしています。

なお、この内水浸水想定区域図は河川の堤防を越えて水があふれることも考慮してシミュレーションしていますが、堤防の決壊は想定していないため、洪水浸水想定区域と浸水深や浸水範囲が異なる場合があります。
必ず洪水ハザードマップも併せてご覧ください。

凡例(Explanatory Notes)

◎浸水深のめやす

	2.0m以上 1階の軒下以上
	1.0~2.0m 床上浸水相当 1階の軒下まで
	50cm~1.0m 床上浸水相当 大人の腰まで
	20~50cm 床上浸水相当
	2~20cm 道路冠水相当
	2cm未満 道路冠水相当

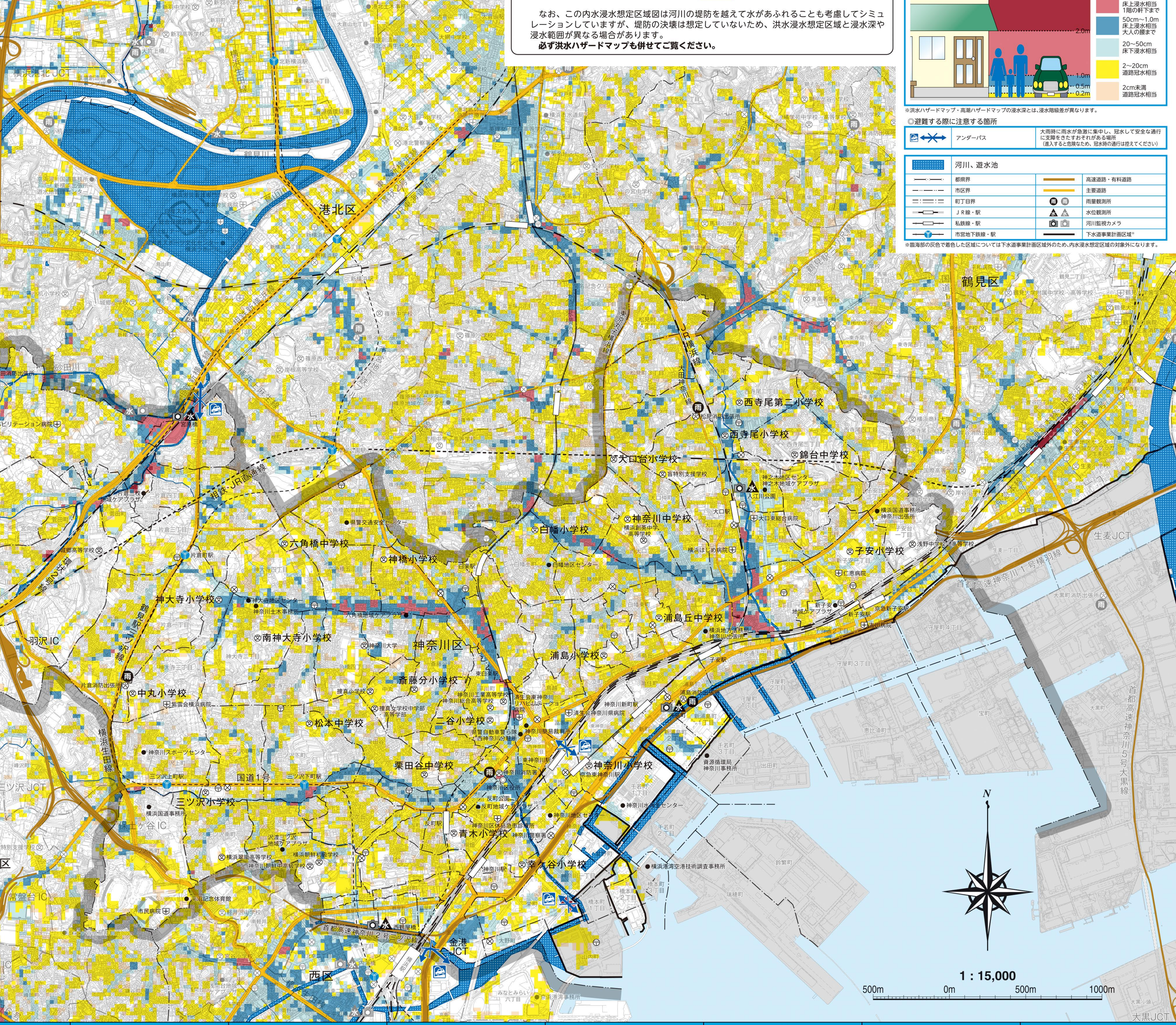
※洪水ハザードマップ・高潮ハザードマップの浸水深とは、浸水階級数が異なります。

◎避難する際に注意する箇所

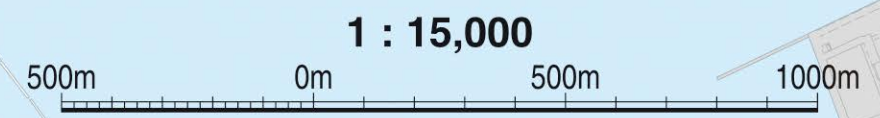
	アンダーパス	大雨時に雨水が急激に集中し、冠水して安全な通行に支障をきたすおそれがある場所(進入すると危険なため、冠水時の通行は控えてください)
--	--------	---

	河川、遊水池		高速道路・有料道路
	都県界		主要道路
	市区界		雨量観測所
	町丁目界		水位観測所
	JR線・駅		河川監視カメラ
	私鉄線・駅		下水道事業計画区域*
	市営地下鉄線・駅		

*※海部の灰色で着色した区域については下水道事業計画区域外のため、内水浸水想定区域の対象外になります。



●想定条件●
1時間で
153mmの降雨
想定最大規模降雨



高潮とは

台風や発達した低気圧が通過する際、海面(潮位)が大きく上昇することがあり、これを「高潮」といいます。

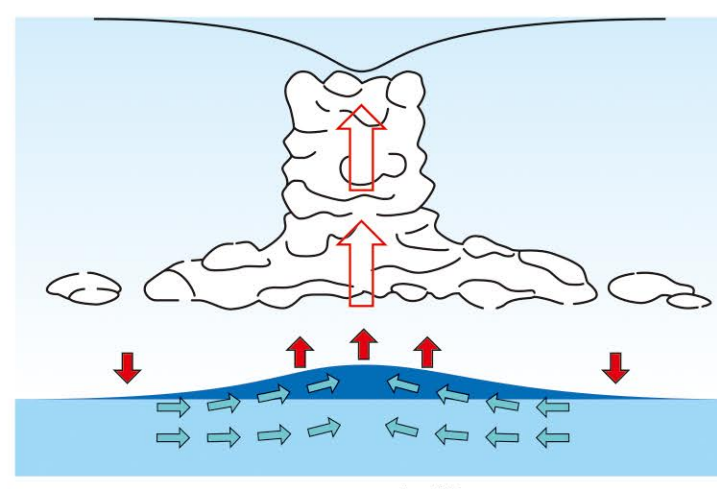
高潮は、主に「気圧低下による吸い上げ効果」と「風による吹き寄せ効果」が原因となって起こります。また、満潮と高潮が重なると高潮水位はもっとも上昇して、大きな災害が発生しやすくなります。

① 気圧低下による吸い上げ効果

台風や低気圧の中心では気圧が周辺より低いため、気圧の高い周辺の空気は海水を押し下げ、中心付近の空気が海水を吸い上げるように作用した結果、海面が上昇します。

気圧が1ヘクトパスカル(hPa)下がると、潮位は約1センチメートル上昇するとされています。

例えば、それまで1000ヘクトパスカルだったところへ中心気圧950ヘクトパスカルの台風が来れば、台風の中心付近では海面は約50センチメートル高くなり、そのまわりでも気圧に応じて海面は高くなります。

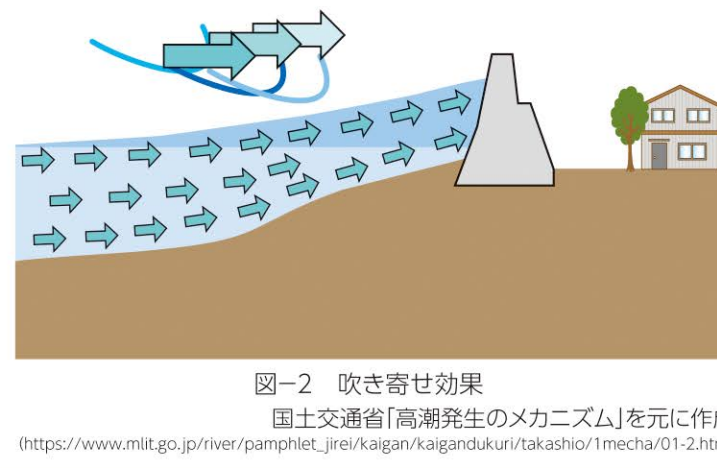


② 風による吹き寄せ効果

台風や低気圧に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇します。

この効果による潮位の上昇は風速の2乗に比例し、風速が2倍になれば海面上昇は4倍になります。

また、風が吹いてくる方向に開いた湾の場合、地形が海面上昇を助長させるように働き、特に潮位が高くなります。



想定条件

中心気圧 **910hPa**、暴風半径 **20,30,40,75km**、
移動速度 **20,30,40,50,53,60,73km/h**の台風

避難情報がでたら

～避難情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は、速やかに避難を開始してください～

警戒レベル	発令状況	とるべき行動	避難情報(横浜市)
警戒レベル5	緊急安全確保	【命の危険 直ちに安全確保!】 ●災害が発生・切迫しており、命を守るための最善の行動をとる。	緊急安全確保
警戒レベル4	避難指示	【危険な場所から全員避難】 ●直ちに身の安全を確保できる場所へ避難する。 ●(情報の入手方法と日頃から備える「避難の考え方」もお読みください) ●避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難する。 ●天候や水位の急変時には、高齢者等を避難を促す避難指示を発令することがあります。	避難指示
警戒レベル3	高齢者等避難	【危険な場所から高齢者等は避難】 ●避難に時間を要する人(高齢者の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は、安全な場所へ避難を開始する。 ●その他の人は、家族などと連絡、持ち出し品の用意など、避難の準備を開始するとともに、危険だと思ったら早めに避難する。	高齢者等避難
警戒レベル2	-	【自らの避難行動の確認】 ●避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認する。 ●避難情報の把握と、避難手段の確認をする。	-
警戒レベル1	-	【災害への心構えを高める】 ●防災気象情報等の最新情報に注意する。	-

神奈川区高潮ハザードマップ 高潮浸水想定区域(想定最大規模※)

この高潮ハザードマップは、高潮による氾濫が発生した場合に、浸水が想定される区域の皆さんに速やかに避難していただくために作成したものです。

※想定最大規模とは「想定し得る最大規模の高潮」による氾濫を前提として予測したものです。

高潮浸水想定区域(想定最大規模)はどうやって決めたの?

この高潮浸水想定区域の範囲や深さは、国内観測史上、最も大きな台風が、沿岸に最悪の被害を与える経路で襲来した場合をシミュレーションにより予測したものです。

【想定する台風】
●中心気圧：910hPa(室戸台風風) ●暴風半径：20,30,40,75km(伊勢湾台風風)
●移動速度：20,30,40,50,53,60,73km/h(伊勢湾台風風)

なお、この高潮浸水想定区域は、下水道等からの浸水、水路の氾濫等を考慮してません。したがって着色されていない区域でも浸水が発生する場合や、実際の浸水深と異なる場合があります。

※神奈川県ホームページ
(https://www.pref.kanagawa.jp/docs/jy2/takashio/tokyo-bay.html)



風水害時における避難場所について

◇災害時には、指定緊急避難場所以外に、地区センター、地域ケアプラザ等の公共施設、自治会町内会館を避難場所として開設する場合がありますので、避難する際は、必ず、市・区のホームページやテレビ(データ放送)等で開設されている避難場所をご確認ください。

◇2か所以上の避難場所へ避難できる場合、自分自身であらかじめ複数の避難経路を確認しておきましょう。

◇すでに浸水が始まっている場合には無理に避難場所へ移動せず、浸水していない近くの高いところや避難してください。

なお、神奈川区では浸水時の避難場所として、下記に示した指定緊急避難場所を優先して開設します。

特別警報級の台風が横浜市に上陸、接近する場合	●子安小学校、●浦島丘中学校、●神奈川小学校、●幸ヶ谷小学校、●神奈川小学校、●神奈川小学校
一般的な規模の台風が横浜市に接近する場合	●浦島丘中学校、●神奈川小学校、●神奈川小学校

神奈川区では、避難指示や避難場所の開設状況など、情報を収集できる自動音声案内を導入しています。 電話:050-3196-3300

指定緊急避難場所一覧(切迫した災害の危険から逃れるための場所)

◇指定緊急避難場所※はあくまでも避難場所の候補であり、災害時は災害規模や状況によって開設場所を判断するため、すべての避難場所を開設するわけではありません。

※指定緊急避難場所：災害対策基本法に基づいた、切迫した災害の危険から逃れるための一時的な避難場所です。災害種別(洪水や土砂災害など)ごとに指定しています。

No.	指定緊急避難場所	所在地	位置
1	子安小学校	新子安1-36-1	H-4
2	錦台中学校	西寺尾3-10-1	G-3
3	西寺尾第二小学校	西寺尾2-15-1	G-3
4	西寺尾小学校	西寺尾2-5-1	G-3
5	大口小学校	大口仲町460	F-3
6	神奈川中学校	西大口141	F-4
7	浦島丘中学校	白幡東町27-1	G-4
8	白幡小学校	白幡上町11-1	F-4
9	神奈川小学校	東神奈川2-35-1	F-5
10	幸ヶ谷小学校	幸ヶ谷1-1	F-6
11	二谷小学校	平川町11-1	E-5
12	浦島小学校	浦島丘16	F-5
13	栗田谷中学校	栗田谷3-1	E-5
14	青木小学校	桐畑17	E-6
15	松本中学校	三ツ沢下町30-1	D-5
16	三ツ沢小学校	三ツ沢中町4-17	D-5
17	斎藤小学校	斎藤分町34-1	E-5
18	神橋小学校	六角橋2-34-19	E-4
19	南神奈川小学校	神奈川2-9-16	D-5
20	神奈川小学校	神奈川3-34-1	D-4
21	六角橋中学校	六角橋5-33-1	D-4
22	中丸小学校	神奈川3-17-1	C-5
23	菅田の丘小学校	菅田町1386-2	-
24	羽登田小学校	菅田町674	-
25	羽登田小学校	羽登町935	-

※23、24、25の指定緊急避難場所は内務部のため掲載しておりません。

凡例(Explanatory Notes)

●浸水深のめやす

10.0~20.0m未満	※神奈川区では、該当エリアはございません。
5.0~10.0m未満	
3.0~5.0m未満	2階部分まで浸水する深さ
0.5~3.0m未満	1階天井まで浸水する深さ
0.0~0.5m未満	おとなの膝まで浸かる深さ

※内水ハザードマップの浸水深とは、浸水想定値が異なります。

都県界	高速道路・有料道路
市区界	主要道路
町丁目界	避難場所
JR線・駅	雨量観測所
私鉄線・駅	水位観測所
市営地下鉄線・駅	河川監視カメラ

○避難する際に注意する箇所

東横線等沿線浸水想定区域(氾濫)	堤防決壊等に伴う氾濫により家屋が倒壊・流出するおそれがある区域の目安。中家屋の構造、強度特性や護岸対策等の違いにより、この区域の境界はあくまでも目安です。
アンダーパス	大雨時に雨水が急激に集中し、冠水して安全な通行に支障をきたすおそれがある場所(進入すると危険なため、避難時は通行を控えてください)
急傾斜地崩壊危険区域	崖崩れにより相当数の居住者に危険が生ずるおそれがある急傾斜地と、崖崩れが助長・誘発されないようにするために切土・盛土などの一定の行為を制限する必要がある土地です。
土砂災害特別警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがある区域と認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。
土砂災害警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがある区域と認められる区域であり、危険の通知、警戒監視体制の整備が行われます。

出典データ

背景図	横浜市地形図複製承諾番号 令5建都計第9035号 横浜市建築局都市計画基本図データ(地図レベル2500)により作成
河川	横浜市道路局 河川図
浸水想定区域	神奈川県 高潮浸水想定区域図(令和6年2月指定)
急傾斜地崩壊危険区域	横浜市建築局 急傾斜地崩壊危険区域(令和5年12月現在)
土砂災害警戒区域	横浜市建築局 土砂災害警戒区域(令和5年12月現在)
土砂災害特別警戒区域	横浜市建築局 土砂災害特別警戒区域(令和5年12月現在)

